

コロナの予防接種の副作用について

2021年7月30日金曜日 第772回コンタクトより抜粋

ビリー まず初めに、最近 Achim が掲載するために送ってくれた記事を紹介するよ。よかったらざっと目を通して見るかい。

フロリーナ 読ませてほしいわ....

ベルムンダ ...私がここで見てみると、さまざまな日付がありますね。でも、私はあなたがそれらを私たちのコンタクト記録に掲載するのにいいことだと思うし、価値があると思います。

フロリーナ そうね。ベルムンダは、私が思っていることを言ってくれているわ。

ビリー それじゃ、君たちは、私と同じように、これらの新聞報道を私たちの会話の中に挿入することに意味があると考えているんだな。もしかしたら、また Achim が送ってくれるかもしれない。おそらく、まだ貴重な情報を持っていて、私もそれをここにあるものに付け加えたいと思うものもあるだろう。君たちはそれについてどう思う？

フロリーナ これらの記事に関しては、非常に参考になりますし、今後の記事もそうなるでしょうから、まだ掲載していただいても構いません。

ベルムンダ 私もそう思います。

ビリー よし、じゃ、私はそうするだろう。次に、私は最初の記事をここに挿入するが、これはもっとも日付どおりになっていないのだ。というのは、これらはさまざまな日付のものだからだ。

健康

昏睡状態の患者や死にかけている人への予防接種

"正真正銘の予防接種ブームの到来"-。

集中治療室の看護師に独占インタビュー

By Susanne Ausic, 28 July 2021; Updated: 28 July 2021 15:27

ワクチン接種をしないと、トレーニングも仕事もできません。COVID の新しい予防接種技術を投与されたいという圧力が高まっています。政治的に望まれているトゲを拒む人は、差別され、連帯感のない人というレッテルを貼られる。しかし、これは氷山の一角に過ぎません。

いわゆるコロナ・クライシス以降、病気への対処法が政治に左右されるようになった。現在、特に盛り上がっているのが、遺伝子組換え COVID-19 ワクチンの議論です。マスクの必要性がなくなるまでに、85%の成人が完全に予防接種を受けている必要があると、Association of Intensive Care Physicians は要求しています。「Epoch Times」は、ネットワーク「Pflege für Aufklärung」の発起人である集中治療室の看護師、Werner Möller 氏と Christian Snurawa 氏に話を聞きました。この2人は、約30年にわたる集中治療の経験を振り返ることができます。呼吸療法士でもあるメラーさんがクリニックで働く一方、スヌラワさんは院外で活躍しています。彼らは、政府の現在の「様式上の失策」に首をかきしげるしかないが、それは特に COVID ワクチン接種をめぐる状況に当てはまる。

エポックタイムス：教育に対する看護の役割をどのようにお考えですか？

ヴェルナー・メラー: 患者さんの幸福は私たちの心の中にあります。私たちは、この病気の深刻さを人々に伝え、COVID-19 の治療方法や、そもそも患者に適切な人工呼吸を行う方法などを知らせたいと思っています。

私たちは、DRG (Diagnosis-Related Groups、症例ごとの定額料金) が導入されて以来、連邦政府による悲惨な病院財政を何年にもわたって観察してきました。これにより、病院はますますビジネス企業のようになり、賢明な人事政策よりも利益の最大化を目指すようになりました。

専門家は噂され、耳を傾けてもらえず、医療や看護の専門職はどんどん解体されていきます。政治的な目的のために看護が必要になった場合、ラインに忠実な同僚は、ランツのショーや連邦政府の記者会見で、あちこちでコントロールされた批判を表明することが許されますが、残念ながら多くの同僚やジャーナリストを欺くこととなります。

これらのことから、私たちは「Care for Enlightenment」を設立しましたが、コロナはそのきっかけに過ぎません。このような状況は、コロナの前から始まっていました。私たちは専門家であり、人工呼吸をし、看護をし、人工呼吸をやめるなどしています。注文した人がほとんど自分では実行できないような注文をすべて実行します。

私たち「Care for Enlightenment」には、クリニックや施設の状況について、日々多くの報告が寄せられていますが、限られた時間の中では、100%確認することはできません。しかし、具体的な情報が得られた場合には、対象となる老人ホームの入居者の親族などに連絡を取ることもあります。また、「Care for Enlightenment」として、非常に多くの介護スタッフや医師、他分野の多くの専門家と接しています。

ET: クリニックや介護施設での COVID-19 の予防接種について、スタッフや患者さんはどのように感じていますか？

クリスチャン・スヌラフ: まさに予防接種ブームが起きています。保健所や医師が老人ホームや呼吸器系の団体にワクチン接種の状況を尋ねる電話をするのを毎日のように目にします。医療施設や介護サービスは日々圧迫されています。健康なスタッフは、適切な教育を受けずに新しい技術で治療を受けることを強いられています。最期の時を迎えた人が、彼らと一緒に治療を受けています。

公共のメディアだけでは、人々はプレッシャーを感じてしまう。誰もが、仲間の「保護」という封印のもと、連帯感を持って接しているはずですが、心理的なトラックにはプレッシャーがあります。看護分野の教育・訓練の現場でも、予防接種狂に引きずられない人はほとんどいない。

現在では、雇用者が予防接種の予約をすることが一般的になっています。健康な労働者がそのような治療を望まない場合でも、予防接種センターに予約を入れに来て、皆の前で直接、予防接種を受けたくないと言わなければならない。これにより、プレッシャーが非常に大きくなります。

意図していなくても、ワクチンを接種する人もいます。それでも接種したくない人は、上司から面接を受けることとなります。私たちが受け取った報告書によると、ワクチン接種を希望する人は「反社会的」なイメージを持たれているようです。もちろん、まだ修行中の若い人たちにも何かと影響を与えます。そして、予防接種を受けます。

メラー: 針の前に来て「嫌だ」と言わないものはすべて接種します。昏睡状態の患者さんもです。認知症患者は、治療に参加するために2回ワクチンを接種する必要があります。透析患者も2回ワクチンを接種することが推奨され、そうしないと治療が中断される恐れがあります。施設内のシチュエーションは身の毛もよだつほどです。ある看護師さんは、絶望的な気持ちで私たちに連絡してきて、

「助けて、どうしたらいいの？死にかけている人にワクチンを打つんだ！」。また、ある施設の入居者が、本人や親族の同意を得ずにすぐに「予防接種」を受けたという事例も紹介されました。看護スタッフが外部の研修イベントに参加することを免除しているところもあります。私が受け取った手紙には、「完全にワクチンを接種したスタッフは、2回目のワクチン接種の14日後から外部のトレーニングコースに参加することができます」と書かれています。

ET: そのような場合にはどうしますか？

メラ: 人々を教育する。人に投与されるのは、従来のワクチンではなく、遺伝子治療です。この mRNA 技術は、30 年前から腫瘍学の分野で研究されています。今のところ、承認されていないだけです。パンデミック・エマージェンシーが宣言されたことで、その状況は一変しました。パンデミックがなくなっても、パンデミックの緊急事態は政治的に維持されています。

COVID 病の経過は通常無害ですが、子供であっても予防接種を受けるべきです。子供にワクチンを打つことは犯罪です。技術的な観点から言えば、ワクチン接種は全て犯罪です。

現在、Moderna は mRNA 技術を用いて、インフルエンザ (Grippe)、COVID、RSV (respiratory syncytial virus) の混合ワクチンを開発しており、これに関する臨床試験を行っています。その中で、mRNA の技術は継続していきます。すでに専門家の間では、インフルエンザワクチンが効かなくなり、インフルエンザの流行に向かう可能性が議論されています。将来的には mRNA ワクチンのみが投与されるようになるかもしれませんが、コロナは歓迎すべきスタートです。

ET: COVID ワクチンが条件付きでしか認可されていないことを踏まえて、この状況をどのように捉えているのでしょうか。

メラ: 私は 30 年近く集中治療室で働いています。看護師としては、患者さんが食べるのを拒否した場合、食べるものを与えることすら許されません。無理強いしたら、強要罪で訴えられるかもしれません。今、この予防接種療法が人々に強要されています。

この遺伝子治療は、現在、マクドナルドなどで「ドライブイン」として投与されている。それは医学的な療法であり、「ハプニング」ではありません。こんなことは今までになかったことです。これほどまでに無批判なアプローチは見たことがありません。医者も見ないし、教授も見向きもしない。私たちのネットワークを利用する医師が増えています。呼吸困難や肺の病気で来院した患者さんには、ワクチン接種の有無すら聞かれません。ワクチン接種の状況は、通常、病歴や治療計画において考慮されません。モットーは、"It can't be the vaccination" で、"It can't be what can't be" という言葉に忠実です。

しかし、患者さんに「不定愁訴はいつからですか」と聞いて、「先週です」と言われたら。そして、彼は「先週」と言っていますが、それならば、ワクチンを接種したかどうかを尋ねなければなりません。ほとんどの場合、答えは「イエス」です。そして、非常に多くの場合、少なくとも時間的なつながりがあります。

ワクチンを接種した患者の多くは、接種後 3 日目に突然倒れたり、急性の息切れや肺塞栓症の症状を呈し、D ダイマーの上昇、血栓症および/または塞栓症を伴うことが多い。また、特に喘息患者やコルチゾン療法を受けている患者など、過去に病気を患ったことのある患者では、重篤なアレルギー反応がしばしば見られます。また、麻痺や痙攣などの神経症状も多く見られます。

お年寄りの患者さんは、心臓や肺に持病があり、ワクチンを接種していても亡くなる方が多いです。しかし、若い患者さんでも予防接種後に問題が発生することがあります。例えば、30歳の女性が予防接種後に麻痺してしまったという話を聞きました。立ち直るには何ヶ月もの治療が必要です。同僚たちは予防接種後に倒れ、事前に健康だったにもかかわらず、1週間も寝込んでしまう。ワクチン接種で持病のある人がロックアウトされるのは当然のことです。お年寄りが免疫反応で弱ると、心筋梗塞や肺塞栓症などで死んでしまいます。医者が見て見ぬふりをするという現象が起きています。単なるプロの無能ではないと疑われても仕方がない。

ET: スヌラワさん、あなたは病院外での経験はどうですか？

スヌラワ: 換気設備では、ワクチンを接種しても、遅くとも1~2週間後には大量の呼吸困難を訴えるというケースもありました。患者は非常に大量の粘液を出し、それをトラキアで吸引しなければならぬため、人工呼吸器の調整がうまくいかなかった。これは、すべての分野に共通することです。同僚は予防接種後に大量のクレームを出しています。例えば、女性の間では大量の膣からの出血がありました。ある同僚は、尿道からの出血を訴えていました。

出血した同僚のケースでは、GPは、彼女が予防接種にアレルギー反応を起こしたに違いないと言い、そのため、2回目の予防接種にうまく耐えられるように、次の予防接種の1日か2日前に抗ヒスタミン薬を飲まなければならないと言いました。彼女は医師のアドバイスに従った。2回目のワクチン接種後、週末はずっと高熱が続きました。彼女は完全に無力化されていた。

メラー: 多くの女性の同僚が、月経にまつわる悩みを相談してきました。肺塞栓症もその一つです。ワクチン接種によって目に血栓ができ、失明するケースも多いと聞いています。これは多くのクリニックで起こることです。重症のがん患者は、化学療法後にワクチンを接種します。膨大な病気を患っている人が、どうしてこんな新しい技術を受けられるのか。医者が何を考えているのか、本当にわかりません。遺伝子製品の技術情報でも、免疫不全の治療や、例えばコルチゾン療法などを勧めています。

スヌラワ: 信じられないですね。また、喘息患者もワクチン接種の優先グループに含まれています。それを決めるのは誰なんだろう。医師が治療に疑問を抱くことなく、連帯感を背景に皆がワクチンを接種する。私たちは、バイオンテック/ファイザー、モデナ、アストラゼネカの添付文書に記載されている内容を多くの人に伝えてきました。しかし、誰も聞いてくれない。人々はこのワクチンを求めて走っています。

ET: それはなぜですか？

メラー: それがサイコーの効果です。「高齢者を守りたい」というのがシナリオです。誰もがお年寄りを守りたいと思っています、私も。でも、こんなのは勘弁してください。今、お年寄りがモルモットにされています。持病があると、若くて安定した人が普通に対処できる予防接種でも、深刻な合併症を起こしてしまうのです。

ワクチンの臨床試験では、必ずワクチンを接種するグループと、何も与えないプラセボグループがあります。そして、何が起こるかを見るのです。コロナを通して、プロの裁判の方法論は完全にコントロールできない。という疑問が浮かんできます。現在ワクチンを接種している人の中にもプラセボ群があるのでしょうか？それは全くわかりません。有効成分が含まれているかどうかは、バッチをチェ

ックしなければなりません。以前、感覚的な薬を開発するために使われていた専門的な方法は、今でも通用しますか？

ET： 予防接種を受けていない従業員へのプレッシャーはどのくらいですか？

メラー： とんでもない。ルートヴィヒスハーフェンの病院では、ワクチンを受けていない従業員の状況があった（「Epoch Times」が報じた）。このことが世間に伝わるようにした。その従業員は、経営陣によれば、患者にとって危険な存在であるため、非常に大きなプレッシャーを感じています。私は、そこにいる多くの同僚が、結局は自分自身でワクチンを接種したが、最も深刻なワクチン接種反応があったことを知っている。

しかし、これらは EMA（欧州医薬品庁）には全く報告されていません。このような事件は記録されません。さらに悪いことに、少なくとも 1 つのワクチン接種との関連性が完全に無視されています。専門的に仕事をしていて、人々の健康に本当に関心があれば、少なくともワクチン接種との一時的な関連性については、きちんと記録するはずです。

人々は強制的にワクチンを接種させられます。ワクチンを接種していない人は、採用すらされません。予防接種を受けていない人の雇用契約は更新されないか、試用期間中に解雇されます。社員が面接に呼ばれ、これ以上差別されたくないとワクチンを接種して帰ってくる。コロナを怖がっているわけではなく、放っておいてほしいからワクチンを接種するというケースがほとんどです。Care for Enlightenment では、近日中にこの件について報告する予定です。

スナラワ： 馬術で知っています。ライダーは競技に参加したいと思っていますが、常に検査を受けたいとは思っていません。なぜなら、それはワクチン接種の代わりになるからです。誰もそんなことはしたくない。

最近、私のところに検査を受けたおばあさんがいました。その女性は歩くこともままならず、検査があまりにも面倒なので、すっかり疲れてしまった。このおばあさんも、検査の狂いに耐えられず、ワクチン接種を考えたそうです。

ET： ドイツの首相は、予防接種をより身近なものにするためのクリエイティブなソリューションを推進しています。これについてはどう思いますか？

スナラワ： 私は、新しい「予防接種の実施」が特に悪いと思っています。ワクチン接種をマクドナルドの食事に例えています。スクーターで予防接種に行き、接種後すぐに車を走らせる人がいることを想像してみてください。それは全くの無責任です。この人が 100 メートル後に倒れると、どれだけ危険かを実際に知っているのだろうか。

メラー： 医学的には、これは責任のないことです。予防接種は医療行為です。昨年、破傷風の予防接種を受けたとき、安全のために 15 分ほど待合室にいなければなりませんでした。この安全性は今、カーペットの上に流されている。

ET： 死亡に関するデータ収集をどのように見えていますか？

スナラワ： ワクチン接種後に亡くなった人がすべてワクチン接種のせいで亡くなったとは言いませんが、少なくとも時間的な関係を見て、死因を調査する必要があります。ワクチンを打って死ぬのか、体が反応して死ぬのかを調べなければなりません。本当に人々の健康を考えているのであれば、クリ

ニックに来るすべての患者さんの予防接種の状況を聞かなければならないはずです。しかし、それをする人はほとんどいません。

実際、公式に報告されている死亡例はすでにワクチンに不利なものであり、報告されていない症例の数は膨大なものです。私は、データ収集にも含まれていない重篤な合併症を持つケースをたくさん知っています。

メラー:問題は、なぜ免疫力のない人がワクチンを接種するのかということです。偽善の誓いを立てた医師が、そんなことに付き合っているのか？私たちは、人々を教育するためにあらゆる努力をしてきました。しかし、誰も聞いてくれない。これは、新しい治療法に対応するための非常にプロフェッショナルではない方法です。

私はパンデミックが始まった当初から、COVIDのICU患者のベッドサイドにいました。Coronaの仕組みは知っています。COVIDの患者さんの人工呼吸をしたり、ケアをしたり、人工呼吸をやめさせたり、いろいろなことをしています。確かに私はコロナを否定しているわけではありませんが、世界的に見れば死亡率が低いとはいえ、私が見るのは主に重度のコースです。

パニックを起こさないように、病気のことを真剣に考え、市民に適切な教育をしなければなりません。市民は、この病気に有能に対処できなければならない。無駄な仮面をつけるように仕向けられては、彼らのためになりません。また、小さな子供のように見下されて、最終的に危険な遺伝子治療（COVIDワクチン接種）になってしまうのも良くない。

このワクチン接種は、市民の福祉ではなく、製薬業界や政治の経済的・地政学的な利益のために行われています。どこからが政治で、どこからが病気なのかを知っている。多くの医師は洗脳されているようで、問題を深く調べずに政治的な推奨事項に従うだけです。

ET:それはとても画期的なことですね。例外はありますか？

メラー:幸いなことに、数は少ないですが、このような狂気の沙汰に加担しない老人ホームもあります。自覚症状がない場合には検査を行わない施設もあります。スタッフや居住者が危険を感じたり、症状がある場合は、もちろん検査を受けることができます。

また、シュトゥットガルトにある2つの介護施設では、私たちが以前から協力しているマネージャーが入居者の検査をせず、マスクも着用させていません。そこにはコロナの発生はなかった。しかし、保健所はそれを快く思わず、施設を閉鎖しようとしてしました。しかし、裁判所は相手にしてくれなかった。この点については、2021年3月16日のシュトゥットガルト行政裁判所の判決があり、それによると、無症候性の看護職員に対する強制検査は違憲であるとされています。多くの人は、強制的なテストは一切なく、単なるコロナのテスト推奨であることを知らない。

しかし、健康分野では本当にごくわずかな例外しかありません。老人ホーム、診療所、同僚との会話、毎日届くたくさんの手紙など、私たちはたくさんネガティブなことを目にしてきました。

ET: ワクチン接種後のスタッフ不足について、何かご意見はありますか？

スヌラフ: もちろん、接種後に欠席するスタッフもいますし、全く仕事ができなくなる人もいます。スタッフが平日に欠勤しないように、金曜日にしかワクチンを接種してはいけないという明確な指示を出す上司もいます。スタッフが事前に予防接種を受けたところ、体調を崩して欠席してしまったのです。そのスタッフは、上司に怒られて、危うく注意を受けるところでした。

ワクチン接種後、チームが閉鎖されたために、現在、病棟によってはほとんど患者がいらないという病院をたくさん知っています。病院にとってのダウンタイムのコストは、決して小さくありません。賃

金は支払われるが、患者は他の病院に移動しなければならず、収入は減る。老人ホームや病院では、病気によるスタッフの損失と、ワクチン接種後の損失を比較する必要があります。これを把握することは、すべてのクリニック運営者や施設の関心事となるはずですが。

ET: ワクチンの反応や死亡に対する責任の問題をどのように考えていますか？

メラー: 予防接種の被害が全く報告されていない場合、誰も責任を負うことができないのでは？誰も責任を負いません。ワクチン接種を強要される健康な老人ホームの入居者がいます。ワクチンを接種した人が、接種後すぐに亡くなったケースを知っています。家族にも知らされていなかった。だから、親族は「この人は予防接種のせいだ」とまでは思っていない。

話題になっている PCR 検査についても一言。最初の COVID 患者がクリニックを訪れたとき、PCR 検査だけに頼ることはできないということがすぐわかりました。ct 値が 30 以上の場合は、感染性の観点からは全く意味がありません。一方、ct 値 30 の患者を隔離解除することも公式に行われるようになりました。つまり、私たち看護師はマスクをするだけで防護服は着用せず、ウイルス量が無害に少ないと判断されるため、患者は他の患者と一緒に過ごすこともできるのです。

もし、ロバート・コッホ研究所が、陽性と判定されただけの「感染者」が何千人もいると再び発表するならば、どの ct 値を根拠にしたかを誰もが知るべきである。検査を受けた人は、ぜひこのことを聞いてみてください。症状がないのに ct 値が 30 以上の場合、隔離は全く適切ではありません。そうしないと、健康な人たちを孤立させてしまう。しかし、多くの人はそれを知りません。知っている人は目立たないようにしています。そうしないと、すぐに隅に追いやられて誹謗中傷されてしまうからだ。しかし、私たち集中治療室の看護師の場合、これは単なる意見ではありません。陰謀論ではありません。何十年もの経験からそれがわかっているのです

ちなみに、数が増えてきたときに、陽性反応が出た人のうち何人がワクチンを接種したかを RKI が区別しているかどうかは興味深いところである。

看護師は、連邦政府の悲惨で無能なリーダーシップのもと、長年にわたって苦しんできました。「Care for Enlightenment」は、ケアワーカーが再び影から出て、病院や施設の状況を積極的に報告することを実現したいと考えています。我々は専門家であり、政治家ではない。

ET: インタビューにご協力いただきありがとうございます。

インタビューは Susanne Ausic が担当しました。

この記事は Epoch Times の週刊新聞 KW29 号に掲載されました。

出典：<https://www.epochtimes.de/gesundheit/es-ist-ein-regelrechter-impfwahnsinn-ausgebrochen-intensivpfleger-im-exklusiven-interview>

Covid の予防接種について語るニ科尔看護師。

"今まで見たことがない"

uncut-news.ch, 2021 年 7 月 29 日

C19VaxReactions.com というサイトに、米国メリーランド州バルティモアの看護師ニ科尔さんが、コビットワクチンの体験を語るビデオが掲載されています。このサイトは、コロナ社のワクチンによって深刻な被害を受けた人々が増えてきたことから設立されました。

ビデオでは、多くの患者さんが被害を受けていると言っています。"本当に今まで見たことがない"と言っています。今年の1月以降、彼女はワクチン接種後に6人の死亡者を目撃しています。また、重篤な副作用のケースも数多く見てきた。"数えるのをやめました。"

"発熱"や"悪寒"、"筋肉痛"といった副作用ではなく、"血栓"や"知覚異常"、"胃不全"、"呼吸停止"、"心停止"、"脳卒中"、"糖尿病"などが挙げられます。歩くことができなくなった患者さんがいます。足や手が燃えると訴える患者さん。自分の居場所を忘れてしまう。今まで見たことがない」と看護師さん。

医師や看護師は彼女を無視したり、どうしていいかわからなかったりする。多くの患者は、医療従事者が何が悪いのか分からず、耐え難いほど苦しんでいるとニコルは言います。実験的な治療によって被害を受けているのに、そのためのプロトコルが存在しない」。

また、認知的不協和を解消し、患者がワクチン接種によって被害を受けていることを医師に理解してもらうのは非常に難しいとも語っていました。

ワクチン接種後に死亡した人の検死はどこで行われているのか？

著者 hwludwig, 公開日 2021年7月23日

世界的に Covid-19 の予防接種に関連して亡くなる方が増えています。すべてのワクチンは、試験期間が大幅に短縮されているため、限定的な緊急承認しか得られないのですが、実際には因果関係もあるのかどうかを調査する必要があります。これは剖検（死後の検査）によってのみ必要な確実性をもって決定されます。しかし、ワクチンとの因果関係を検証するための剖検はまだほとんど行われていません。州の保健当局は、死因が Covid のワクチンによるものではないとブロックして断言しています。このコンプレックスは、2021.3.23 のこちらの記事ですすでに指摘されていました。予防接種の安全性に責任を持つポール・エーリック研究所 (PEI) と国営メディアは、2月のコロナワクチン接種後、2021.1.31 までに報告された113人の死亡者について、「ワクチン接種に関連して死亡者が増えたという兆候はない」とすでに否定しています。また、シュトゥットガルトの検事総長は、コロナワクチン接種後すぐに死亡した人の検死の一般的な実施を断固として拒否した。主な理由は、ワクチン接種と高齢者の死亡との間に起こりうる因果関係を示す具体的な指標が、信頼できる情報源で調べられなかったからである。RKI のホームページにも、ポール・エーリック研究所のホームページにも、有効な文献はありません。ここで紹介した死亡例では、予防接種との因果関係はかなり除外されているようです。

彼は、死後の検査に必要な刑事訴訟法で定められた非自然死の初期嫌疑や外因を認識できなかった。生前のワクチン接種だけでは十分ではない。この意見は、彼の選挙区内のすべての検察庁と警察署に適用されるべきである。¹

現在も、この習慣は変わっていないようです。2021.3.4 の PEI の安全報告書にはこう書かれています。"Paul Ehrlich Institute は、33歳から101歳までのワクチン接種を受けた人のうち、330人の死亡を通知されました。SARS コロナウイルス-2 (SARS-CoV-2) に感染すると、重篤な経過をたどる、あるいは致命的な経過をたどる危険性が、年齢の上昇とともに著しく高まる。COVID-19 で死亡する危険性が最も高いのは超高齢者です。SARS-CoV-2 が世界中で流行している状況では、高齢者を感染からできる限り守ることが重要です。高齢者や重度の持病があり死亡リスクが高い人がワクチンを接種した場合、ワクチン接種後すぐに、ワクチン接種との因果関係がないのに死亡するケースが一定数発生します。" ²

2021.4.30 までに、PEI に報告されたワクチン接種による副作用は 49,961 件、524 人の死亡にまで増加した。そして、PEI はその安全性報告書の中で簡潔に指摘しているに過ぎない。

"大多数の死亡者には、癌腫、腎不全、心臓病、動脈硬化性変化などの複数の前疾患があり、それらが死因となったのではないか (!) と考えられます。" ³

注：「おそらく死因」なので、はっきりとしたことはわからないので、予防接種が原因の可能性もあります。しかし、検死では真相はわからない。なぜだ？

2021.7.15 付けの PEI の最新安全性報告書 ⁴ では、2021.6.30 までにワクチン接種の有害事象が合計で 106,835 件に増加したと報告されています。ワクチン接種後の死亡例については、12 ページに書いてあります。

"重篤な副作用"は 10,578 件の疑いのある症例で報告された。(これらの疑いのある症例のうち 1,028 例は、ワクチン接種後、異なる時間間隔で死亡しています。)

死因についての簡単なコメントは、特別編の 14 ページに続きます。

"心周囲炎"などと診断された 9 名 (男性 6 名 : 90 歳、80 歳、71 歳、59 歳、56 歳、女性 3 名 : 84 歳、67 歳、64 歳) が、コビルナティを接種した後、1 日から 50 日までの時間的關係を変えて死亡しました。1 名の場合、年齢と生年月日の情報が欠落しているため、二重報告の可能性を確実に否定できませんでした。ポール・エールリッヒ研究所は、ワクチン接種との関連性を認めていません。なぜなら、**9 人の患者はワクチン接種前から心血管疾患があり、それが死因となったと考えられるからです。...**死因の可能性はある」! ? ですから、はっきりとしたことはわかりませんが、ワクチン接種が原因である可能性もあります。

別の場所では、P.17 にこう書かれている。

"被験者の平均年齢は 49.5 歳でした。TTS (血栓症-血小板減少症候群) 患者の半数以上に脳静脈血栓症が認められました。致死率は、脳静脈血栓症と、脳静脈血栓症の合併症としての脳出血が主であった。脳静脈/下肢静脈血栓症を発症した人の致命的な経過の発生率は 28.3% で、文献に報告されているワクチン未接種者の発生率 (3%) よりも高かった。"

それにもかかわらず、結果は描かれない。死後の検査は当然のこのように思えます。しかし、明らかにコロナ社の予防接種と望ましくない副作用-すぐに起こる無害な反応は別として-や死亡例との間には何の関係もない。

一方で、遺伝子ワクチンと致命的な結果をもたらす血栓の発症との関連性を指摘するバクディ教授、ホッカーツ教授、チャールズ・ホーフェ博士など、ドイツ国内外で実績のある専門家がいます。

"検死"はどこにある？

それはアメリカでも同じです。そこでは、2021.7.7、米国医師・外科医協会 (AAPS) の専務理事である Jane M. Orient 氏 (MD) が講演を行い、予期せぬ死に対する典型的なプロセスが欠如していることに警鐘を鳴らしました。と書いています。

"科学的な医学と言われる時代、パンデミックの時代に、死因の統計を死亡証明書に頼るのは、極めて信頼性が低いことが知られているにもかかわらずです。

何千人もの健康な人々が突然死していますが、保健所は彼らの死は COVID ワクチン接種が原因ではないと断言しています。VAERS (Vaccine Adverse Events Reporting System) によると、死亡者数は約 7,000 人に達しています。たとえ、実際の出来事の 90% 以上を見逃していたとしても、私たちが持っている最高のシステムです。"

更新 : 2021.7.9 までに、アメリカでの死亡者数はすでに 10,991 人に達しています(hl)

さらに、彼女は1つの検死報告書しか見ていないと言います。この患者さんは、ファイザー社の注射を受け、4週間後に亡くなりました。COVID-19に特徴的な点は見られなかったが、ほとんどすべての組織でPCRによるSARS-CoV-2の陽性反応が見られた。

45歳の母親は、ジョンズ・ホプキンス大学（JHU）での仕事を始めるために必要なCOVID注射を受けた直後に、心臓病と脳の腫れで亡くなったばかりでした。涙と花はあるでしょうが、おそらく検死は行われず、母親や母親になる可能性のある人がJHUで働くために必要な予防接種も中断されることはないでしょう。

「私の内科研修は、CT（コンピュータ断層撮影）やMRI（磁気共鳴画像）が登場する前の暗黒時代でしたが、それでも正確な診断を下すことが求められていました。病歴のないまま亡くなった患者は「ME ケース」と呼ばれた。検死官に連絡して、検死の必要性を判断してもらうことになった。薬瓶など、死に関連するものはすべて証拠となりました。注射をした場合は、可能であればそのバイアルを回収する。ワクチンの場合は、サンプルが汚染されていないかどうかをチェックできるように、バッチ番号を記録しておく必要があります。

患者が病院で亡くなった場合、医師は解剖の許可を得なければならなかった。遺族は、愛する人が他の人に感染する可能性のある遺伝性の病気や感染症にかかっていた可能性があることで、1人に同意するようになるかもしれません。いずれの場合も、大切な人が尊重され、葬儀の準備に影響が出ないことを保証しました。チャプレンがボランティアで来てくれる。

最も重要な理由は、「真実の祭壇」が究極の「品質保証機構」であることだった。病院が認定を維持するためには、亡くなった方の一定割合を解剖することが求められていました。1960年、1970年、1980年の3年間に行われた無作為に選ばれた100件の剖検を対象とした古典的な研究では、近代的な画像処理技術が導入されたにもかかわらず、3つの時代のいずれにおいても、約22%の症例で重要な診断が見落とされていたことがわかりました。

残念ながら、この40年間で検死率は25%から5%以下に低下しています。マルプラクティス弁護士以外の人にとっては、収益を上げることはできませんでした。」

彼女はいつも、可能な限り解剖に参加していた。彼女の最も重要な先生の一人は、誰もが見落としていた症状が、頭蓋骨を開けたときに明らかになった患者さんでした。助けることはできなかったかもしれないが、診断を考えていなかったのも、チャンスはなかったのだ。

COVIDで亡くなった患者は数万人にのぼりますが、ドイツで行われた12回の連続検死の結果、ほとんどの患者が血栓を持っており、人工呼吸器で肺に空気を送り込んでも助からないことがわかりました。COVID ワクチン接種後に死亡した場合、組織や血管にスパイクタンパクが存在するかどうか、また、これらの組織を損傷するような免疫反応があったかどうかを知りたいという。母親が赤ちゃんを失った場合、胎盤を徹底的に調べ、血管が損傷したために赤ちゃんの酸素や栄養の供給が滞っていないかどうかを知りたいと思うのです。

「米国疾病対策センター（CDC）、食品医薬品局（FDA）、保健社会福祉省（HHS）、病院を認定するジョイント・コミッションが、ワクチンサンプルの検死や検査を要求していないことは、衝撃的です。製品の安全性や有効性を宣言するには、被害者からの直接の証言が必要です。

メーカーは製造物責任から保護されている。議会に「感謝」。しかし、私たちを守るべき政府機関や、従業員や学生に実験的で危険性のある、あるいは死に至る可能性のある製品を服用させる民間機関の説明責任はどこにあるのでしょうか？」

そして、ジェーン・オリエント博士は、その魅力を読者に伝えます。

「大切な人が突然亡くなったなら、監察医に連絡して法医学的な解剖を依頼してください。」⁶

専門家によるアドバイス

一方で、実際に住民を対象とした遺伝子実験であるコロナワクチンは、血液が固まりやすくなり、その結果、血栓症になり、致命的な結果になることが多いことは、しっかりとしたオルタナティブメディアから広く知られています。初期には、元公衆衛生官で肺炎学者、衛生学・環境医学博士のウォルフガング・ウォダグ博士も保健当局に警告を発していた。

2021年3月7日、ウォダグ博士が自身のウェブサイトで発表したように、オーストリア連邦医療安全局（BASG）は、「アストラゼネカ社のワクチンの同じバッチ（ABV 5300）のワクチン接種に一時的に関連して...女性（49歳）が重度の凝固障害の結果として死亡した」「肺塞栓症を発症した別の女性（35歳）が「回復に向かっている」という2つの報告を受けたと報告しました。

これについて、当局は次のような評決を下した。

"現在のところ、ワクチン接種との因果関係を示す証拠はありません。既知の臨床データに基づけば、特に血栓症は当該ワクチンの既知または典型的な副作用の一つではないため、因果関係は証明できません。"

ウォダグ博士はすぐにオーストリア連邦政府に手紙を出し、同時にドイツのポール・エリック研究所（PEI）にも手紙を出した。

"Dear Ladies and Gentlemen"（紳士淑女の皆様へ）。

あなたの報告とは逆に、スパイクプロテインの副作用として血栓傾向が強いことが知られています。そしてスパイクタンパク質は、すべての遺伝子の「予防接種」によって体内で形成されることになっています。コロナ感染症では、通常、上気道の局所的な免疫反応によって無害化されます。しかし、「ワクチン接種」の場合は、この保護バリアがバイパスされます。...»⁷

2021年3月14日、Dr. Wodarg は別の理由で PEI に再び手紙を出した。

" - 細胞融合触媒としてのスパイク・プロテインの効果については、あなたの家でも議論の余地はないようです。

- 血栓症の触媒としてのスパイクタンパク質の効果に関する研究を考えると

- また、カイロ近郊のカフレルシャイフ大学から発表された研究の著者が指摘した「長期的な」被害が予想されることも考慮しています。

そして、これまで公式には文書化されていないが、体の中でスパイクたんぱく質が形成されるとされる「予防接種」後の死亡との関連性が非常に高いことを考えると、あなたからの声明を緊急に必要としているのは私だけではないだろう。

ワクチン接種」と呼ばれるこれらの遺伝子操作の直後に、皮膚への出血が記録されたケースが、私のところへいくつも報告されています。脳出血も「予防接種」と直接時間的に関連して発生したと言われています。

あなたが観察した作用機序によると、これらはおそらく、細胞融合による血管壁の損傷や、消費性凝固障害後の出血の結果として、単独または組み合わせて引き起こされる変化でしょう。

多発性血栓症も死因として何度か言及されているが、これも融合や内皮の損傷が有利に働いたのか、あるいは血小板がスパイクタンパク（血栓性 ACE2 受容体）と直接反応して引き起こされたのか、Zhang et al....»⁸

このような専門家の議論は、実際には、因果関係の問題を究明するために、コロナ社のワクチン接種後に死亡した人々の大規模な検死を直ちに行うべきであった。しかし、何もしていない。このような状況が続いています。

真実が明るみに出るのを阻止したいのだろうか。そうなれば当然、世界的なワクチン接種キャンペーンは即座に崩壊し、責任者の人事や製薬会社の利益の損失につながるからだ。

ここで起こっていることは巨大なものです。

1 ファサードスクレーパー：明確化を望まない ...

2 pei.de 4.3.2021

3 pei.de 7.5.2021

4 pei.de 15.7.2021

5 tkp.at 8.7.2021

6 uncutnews.ch 14.7.2021

7 <https://www.wodarg.com>

8 op.cit

出典: <https://fassadenkratzer.wordpress.com/2021/07/23/wo-sind-die-autopsien-wenn-menschen-nach-der-impfung>



COVID-19 ワクチンに関する欧州連合（EU）の副作用データベースにおいて、20,595 人以上の死亡、190 万人の負傷（50%が重篤）が報告されている。

uncut-news.ch, 2021 年 8 月 4 日

欧州連合（EU）の医薬品反応データベースは EudraVigilance であり、現在、COVID-19 の注射による 20,595 人の死亡と 1,960,607 人の負傷が報告されています。

欧州の Health Impact News 購読者から、EudraVigilance 社が管理するこのデータベースは、27 カ国で構成される欧州連合（EU）に加盟している欧州各国のみを対象としていることを指摘されました。

ヨーロッパの国の数はもっと多く、約 2 倍の約 50 カ国です（厳密にどの国がヨーロッパに属するかについては意見が分かれています）。

これらの数字は高いものですが、ヨーロッパ全体を反映しているわけではありません。COVID-19 の銃撃によるヨーロッパでの実際の死傷者数は、ここで報告されている数よりもはるかに多いだろう。

EudraVigilance データベースによると、2021 年 7 月 31 日までに、実験用の COVID-19 シリンジ 4 本を用いた注射により、20,595 人の死亡と 1,960,607 人の負傷が報告されています。

covid-19 mrna ワクチン モデルナ (cx-024414)

covid-19 mrna ワクチン pfizer-biontech

covid-19 ワクチン アストラゼネカ (chadox1 ncov-19)

covid-19 ワクチン ヤンセン (ad26.cov2.s)

記録された全負傷者のうち、半数の 968,870 人が重傷者です。

重大性とは、副作用の疑いを示すもので、死亡に至る医療事象、生命を脅かす医療事象、入院を必要とする医療事象、医学的に重要な別の病態を引き起こす医療事象、既存の入院の延長を引き起こす医療事象、永久的または重大な障害・能力喪失を引き起こす医療事象、先天性異常・出生異常を引き起こす医療事象に該当する場合、「重大」と分類することができるとしています。」

ヨーロッパの Health Impact News の購読者が、ここに掲載している 4 つの COVID-19 ワクチン接種のそれぞれについてレポートを作成しました。EudraVigilance システムには、すべての結果を集計する場所がないため、各回答を負傷者や死亡者と一緒に集計するのは大変な作業です。

この記事を発表してから、ヨーロッパの他の人々も数字を計算し、合計値を確認しました。

2021 年 7 月 31 日までのサマリーデータです。

出典：欧州連合 (EU) の医薬品副作用データベースに報告されたCOVID-19 注射剤の死亡者数 20,595 人、負傷者数 190 万人 (50%が重篤)。

(注：<https://www.globalresearch.ca/20595-dead-1-9-million-injured-50-serious-reported-european-union-data-base-adverse-drug-reactions-covid-19-shots/5751904> 参照)

どんどん近づいてくる

4.8.2021, 15:34

都会のエリートは、自分たちは常に正しいことをしている善人だと考えており、そのため、自分たちの目に映る世界のあり方を他人に説明することを求められていると感じています。寛容さというもの、もう何もない、というか全くない。彼らは哲学者の石を発見し、彼らの世界だけが正しいものであり、この見解は、必要に応じて禁止され、参加したくない人を排除することで強制されなければなりません。彼らは、自分だけが正しいことをしているので、道徳的に良いと感じています。一方、もちろん、他の人たちは必然的に間違っており、したがって、根本的に間違っているはず。その動きは「ウェイクネス」と呼ばれています。そこに所属する人たちは、他の人たちよりも優れていると感じ、自分のことを少しでも考えている人や世間の目にさらされている人たちも服従しなければならないという強迫観念に駆られます。

この Wokeist だけが全てを正しく行う問題は多岐にわたります。その内容は、男女平等、政治的正しさ、LGBT、BLM、その他のマイノリティ保護、気候保護からコロナのパンデミックまで多岐にわたります。そして、彼らにはコンプライアント・ヘルパーがいる。メディアはそれに喜んで付き合っている。しかし、政治家たちも、自分が底辺になりたくなければ、参加せざるを得ないと考えている。そして、都市部の目覚めた人たちも有権者なので、そうしたくないのです。

政治家たちは、都会の生活者を納得させることの方が重要だと考えているのだろう。これらの人々は、ほとんどが要求の厳しいエリートであり、若くて声の大きいスイング・ボトラーです。一方、その他の人たちは、ほとんどがお年寄りで、第一に、そう長くは投票できなくなっていること、第二に、どうせいつも投票している人に投票する、つまり忠実な有権者であることから、考慮する必要がありません。そのため、心配する必要はありません。

このようにして、すべてを決定しようとし、今ではそれが許されている目覚めた社会が形成されていくのです。Wokeism はタコのように広がっている。

大都市では昔からこのワケありが存在することはよく知られています。しかし、それは今、地方にも伝わっている。先日、あるオフィスに行ったところ、掲示板に 2 つのリストがあり、そこにはスタッフ全員の名前が載っていました。それだけではなく、その事務所では、ワクチンを接種した人が、ワクチンを接種していない人をいじめています。予防接種を受けていない人をいじめる人も、自分が正しいと思っています。いじめは、現在の良好な社会の中にすでに存在しています。

実はとても不思議なんです。ワクチンを接種した人が、接種していない人をいじめる。でも、なぜ？ ワクチンを接種した人が、ワクチンを接種していない人を恐れる必要はありません。逆で、ワクチンを打っていない人は、感染を恐れてワクチンを打った人とは関わりたくない、ということになるはず。でも、それはちょっとおかしい。そして、ワクチンを接種した人たちが、異なる考え方をする人たちに対して寛容でないのも不思議です。

これは予防接種に限ったことではなく、誰もが同じものを提出しなければならないということでもあります。私たちは皆、同じ意見、同じ理想を持つべきです。だからこそ、みんなが予防接種を受ける

べきなのです。誰もが免除されることは許されません。議論しても意味がありません。なぜなら、ワタクたちはもう手が届かないからです。彼らは自分たちがすべて正しいことをしているという良い感覚を持っています。彼らは MORAL を独り占めしている。

また、あらゆる場所でサポートを受けることができます。メディアは圧力をかけるように呼びかけている。先ほど、法的に不可能なので強制接種は導入したくないが、接種反対派への圧力を高めるために国民に期待しているという話を聞きました。それは確かに、すべてに従いたくない人への憎しみをあおることは、社会の平和的な共存にとって非常に良いことです。

また、当時の教会が行っていた集団的強制も知っています。教会の規定通りの生き方をしたくない人は排除された。今日では、この時代の教会には多くの汚点があり、教会が群れに期待するガイドラインを守っていなかったことがわかっています。

私が 50 年間、宗教団体に所属していないのはそのためです。私は単純に自分で考えすぎて、何でも疑ってしまうのです。誰かがそう言ったから、誰かがそう書いたから、という理由で信じるのは、私には向いていません。

また、初期の頃のグリーンズは、私とまったく同じように自分たちの歴史を考えていたのも面白いですね。かつては「寛容」をモットーにしていた。誰もが自分の好きなように生きればいい。自由で制約のないもの。彼らとは多くの共通点がありましたが、今日ではほとんど共通点がありません。それは、私が大きく変わったからではありません。緑の党だけでなく、SPD も、私が従うことのできない、従いたくない道歩んでいます。SPD は傲慢になってしまったので、十分に目覚めていない人々は、たとえ 10% 以下になっても投票したくないと思っています。)

また、他にも不思議なことがあります。ここドイツでは、ウォーキストはすべての犯罪者、たとえ殺人者であっても理解を示し、彼らのためにすべてのドアを開けておかなければならず、彼らを再社会化し、傷つけてはならないとしています。しかし、違う考えを持つ人は、いつまでも悪者にされなければならない。つまり、ドイツでは、全く叱られていない反体制派よりも、殺人者であっても尊敬されるようになったのです。

犯罪者は共同体意識を侵害するがなぜなら、犯罪者も社会と連帯しているわけではないからです。善人とは違う行動をとる。彼も普段は覚醒していません。しかし、DEN-NOCH のすべての犯罪は、異なる考えを持つことほど悪いことではないようです。このように、自分の頭で考え、人と違うことを考えることは、人間にとって最悪の行為であり、社会全体からの排除という最高の罰に値するのです。

ワクチンを打っていても良い方ではないのが幸いです。なぜなら、自分とまったく同じものを求めている同胞を排除することは、非常に難しいと思うからです。寛容さは、私にとって非常に重要なことでした。全然違うタイプの人に対しても。そして、誰もがまず自分の中にモラルを求め、それを自分に要求すべきなのです。他人よりも自分に多くのことを求めることができます。それはあなた次第です。そして、手本となるような生き方は、やはり社会の中では全てに通じるものがあります。

だから、Wokeists の皆さんは、自分の心の中にあるものを生きて、それに満足していますが、みんなが自分と同じではないことを理解しています。Live and let live。また、プレッシャーがあると、良い人がたくさん生まれるわけではなく、「チョークを食べた」人、つまり自分の好きなように行動する人がたくさん出てきます。また、人はふりをするのが得意です。そういう人の方が好きなんですか？私には関係ありません。自分をありのままに見せてくれる人がいい。Who say what they mean.自分の心を表に出している人ただ、正直な人たち。

出典: <https://www.fischundfleisch.com/claudia56/es-rueckt-immer-naeher-73139>

それでも病気になるんですね。

完全なワクチン接種にもかかわらず、数千人のコロナ患者が発生

2021年6月23日 11:13

ダブルワクチンを接種した 17,000 人以上が「完全な免疫防御」後にコロナウイルスの陽性反応を示した。これは、RT DE の問い合わせに対して、連邦保健省が発表したものです。ロバート・コッホ研究所は、今後、このような「ワクチン接種の躍進」とその結果に関する数字を経営報告書に記載したいと考えています。

スーザン・ボナス

ポール・エールリッヒ研究所 (PEI) には、COVID-19 ワクチンのように、ある薬の副作用が疑われるという報告がこれほど多く寄せられたことはない。条件付きで承認された mRNA ワクチンやベクターワクチンの安全性に加えて、その有効性にも疑問が残ります。いくつかの問い合わせに対し、連邦保健省 (BMG) から著者に連絡がありました。ロバート・コッホ研究所 (RKI) では、6月11日までに、

陽性と判定された 17,409 人のうち、すでに 2 回のワクチン接種を受け、「ワクチン接種による完全な保護が確立される」までの 14 日間を生き延びた人を記録していました。

「ワクチンのブレイクスルー」は若年層にもある

BMG 社の広報担当者であるセバスチャン・ギュルデ氏は、陽性反応が出た人のうち何人が COVID-19 に感染したか、あるいは死亡したかについては言及していません。RKI は近い将来、週 1 回のペースでこの数字を状況報告書に掲載する予定です。しかし、RKI は年齢によってワクチン接種の陽性結果を区別していました。それによると、被災者 17,409 名のうち、18 歳未満が 60 名、18 歳から 59 歳が 6,371 名、60 歳以上が 11,001 名となっています。

完全に予防接種を受けたにもかかわらず、COVID-19 の症例としてロベルト・コッホ研究所 (RKI) のアーカイブに登録された高齢者が多かったのは、このグループが最初に予防接種を受けたことが原因と考えられます。いずれにしても、これらの数字は、一部のメディアで専門家がよく唱える「予防接種は、免疫力の低い高齢者にのみ効果が弱い」という仮説を裏付けるものではありません。3 分の 1 以上が 60 歳以下でした。

これらの人々は、完全にワクチンを接種したにもかかわらず陽性と判定されたため、2 回目のワクチンを締切日の少なくとも 14 日前、遅くとも 5 月 28 日には接種していました。この日、RKI は二重接種者数を約 1368 万人と報告していた。その後、0.13% の人が PCR の陽性結果を得ました。

RKI が 2021 年 1 月 18 日に発表した状況報告書には、最初の 2 回目のワクチン接種が記録されていません。これによると、完全に免疫が保護された最初の陽性例は、14 日後の 2 月 1 日に初めて発生したと考えられます。同日から 6 月 11 日までの間に、全国で新たに 149 万件の陽性例が追加されたという。これは、被災者の 1.2% が完全にワクチンを接種し、2 週間の「猶予期間」を終えていたことを意味します。

総人口との比較では以下ようになります。RKI の集計方法によると、調査対象期間中にドイツの全住民の 1.8% がウイルスに感染し、いずれにしても陽性反応が出たこととなります。つまり、全人口における陽性例の割合 (1.8%) は、完全に免疫を受けた人たちのグループ (0.13%) の約 14 倍であった。

症例が安全報告書に掲載されない

1 ヶ月以上前の 5 月 13 日、ジャーナリストの Boris Reitschuster 氏は、連邦記者会見で「ワクチン接種のブレイクスルー」について質問した際に、BMG から回答を得ました。これによると、当局は、4 月末と思われる不明な日付までに、合計 57,146 件の陽性反応を記録しています。そのうち、44,059 人が 1 回、13,087 人が 2 回、ワクチンを接種していました。このうち、4.7% にあたる 2707 人が COVID-19 が原因または原因で死亡しました。

1 回接種した人のほぼ 3 分の 2、2 回接種した人の 38% で、発症が報告されていました。BMG によると、死亡率は前者が 4.6%、後者が 5.1% でした。しかし、当時の BMG は、病気になったり死亡したりした人のうち、2 週間以上前に最終接種を受けた人、つまり今日の専門家によれば「完全な予防接種」を受けたはずの人が何人いたかを知らずしてしまいました。

5 月中旬、筆者はまずポール・アーリック研究所 (PEI) に、コロナに対するワクチンやコロナを接種した後に死亡した 2707 人が、なぜ安全性報告書に掲載されていないのかを尋ねた。今のところ、答えは出ていません。PEI では、4 月 30 日までにワクチン接種後の 524 名の死亡を記録していましたが、5 月 31 日にはすでに 873 名の死亡が確認されており、349 名の増加となりました。

また、報告された有害事象の疑いがあるものは 79,106 件でした。このうち、8134 件は、ワクチン接種に一時的に関連して発生した「重篤な事象」に関するものでした。PEI 自体は、報告されていないケースがさらに多数あることを前提としています。様々な調査によると、副作用の報告は通常 1~せいぜい 10% 程度と言われています。

RKI、「予防接種のブレイクスルー」とその結果を間もなく定期的に発表

PEI は責任を否定した。広報担当者は、同研究所に転送され、連邦保健省 (BMG) に照会されたケースしか記録できないと説明しています。BMG のスポークスマンである Hanno Kautz 氏は当時、同省は RKI からの数字を持っており、そこに尋ねなければならなかったと強調していました。RKI のスポークスマンである Susanne Glasmacher は、5 月 18 日の時点ではコメントしていません。しかし、彼女は「おそらく今週中には、『予防接種のブレイクスルー』に関するレポートを発表する」と断言しました。

約束していた報告書は、1 ヶ月経った今でも手に入らない。先週、Glasmacher 氏に尋ねたところ、RKI はまだ日付を決められないと答えた。筆者は、(最大 25 ページに及ぶ) 状況報告を毎日チェックする必要がある。そして、彼らもまたコメントしてくれます。いずれにしても、報告書が発行されても彼女は発信しない。少なくとも、BMG のスポークスマンである Gülde 氏は約束してくれた。

「近い将来、RKI の状況報告書の中で、予防接種の躍進に関するデータが週に 1 回、定期的に発表されることになるでしょう。さらなる分析 (入院、死亡など) も分類できるようになります。」

しかし、なぜ「ワクチンの躍進」とそれに伴う死亡事故が PEI の安全性報告書に反映されていないのかは、いまだにはっきりしていない。もしワクチンが数千のケースで効かなかったとしたら、これは実際にベネフィットとリスクの比較に関係してきます。

出典: <https://de.rt.com/meinung/119571-immunisierung-fehlgeschlagen-tausende-corona-falle/>

約 7,500 万回の予防接種を終えて PEI レポート 10,000 人の重篤な予防接種反応と 1000 人以上の死亡者

20 年 7 月 20 日 13 時 53 分

血栓症、心臓の炎症、出血など。ポール・エーリック研究所の報告によると、COVID-19 ワクチンを約 7500 万回接種した後の上半期に、副反応が疑われる症例が 107,000 件発生しています。10 人に 1 人の割合で深刻な反応があり、1000 人以上が亡くなった。

スーザン・ボナス

COVID-19 ワクチンが初めて承認されてから 6 ヶ月、リスクとベネフィットのバランスが疑問視されています。一方で、二重にワクチンを接種したにもかかわらず、COVID-19 で体調を崩したり、死亡したりしたという報告が国内外で増えています。さらに、深刻な副作用が次々と明らかになっています。ドイツについては、責任者であるポール・エーリック研究所 (PEI) が先週末に発表した新しい安全性報告書の中で、2020 年 12 月 27 日から 2021 年 6 月末までの間に登録された副反応の疑いのあるケースは合計 106,835 件で、このうち 10,578 人の被接種者が入院治療を受けなければならないほどの重篤な反応を示し、後遺症が残ったり、死亡したりしたと報告しています。

PEI では、EU (欧州連合) で COVID-19 ワクチンが初めて条件付きで承認された後、ドイツでの最初の 6 ヶ月間のワクチン接種により、合計 1028 名の死亡が報告されました。上記の期間には、合計 74,871,502 回のワクチンが投与されました。

PEI での報告事例：ほとんど調査されず、解釈が難しい

とはいえ、この数字を解釈するのは難しい。例えば、PEI では、遺伝子組み換えの mRNA やベクターワクチンであっても、予防接種の反応を積極的に記録することはありません。他の医薬品と同様に、副作用が疑われる場合には、被害を受けた人が自分で報告することになっていますが、実際には医師が報告することになっています。実際には、このような形で当局に届くケースは 1~10%に過ぎない。少なくとも、過去の研究ではそうになっています。

一方で、当局や主要メディア、様々な「ファクトチェッカー」は、機会があるごとに、これらはワクチン接種と一時的な関連性のある病気に過ぎないと断言しています。PEI は報告されたケースをリストアップしているが、それ以上の詳細な調査を指示していない。

したがって、一方では、報告されている健康被害のいくつかは、実際にはワクチン接種後にたまたま発生したものである可能性もあります。一方で、疑わしい副作用の数は、実際に PEI に報告された数の 10 倍から 100 倍になると考えなければなりません。

より多くの女性が影響を受け、多くの後遺症が残る

製薬会社のファイザーとバイオンテックが製造・販売している mRNA ワクチン「Comirnaty」は、これまでドイツで最も多く接種されています。PEI によると、6 月末までに 5,490 万回の予防接種が行われています。それまでに 2,385 万人が 2 回、つまり完全にワクチンを接種したことになります。PEI には、このワクチンに関する 49,735 件の疑わしい副反応が通知され、そのうち 5,781 件は重篤なものでした。それによると、報告された事例のうち 1.1%が患者の死亡に至り、1.3%が後遺症を残す結果となりました。4 件のうちほぼ 3 件で女性が影響を受けました。

スウェーデンとイギリスの製薬会社大手アストラゼネカ社のベクターワクチン「Vaxzevria」にも批判的な記録がある。PEI の報告書によると、ドイツではこれまでに 1,157 万人分のワクチンが接種されています。このように、6 月末までに 244 万人が 2 回のワクチン接種を行った。PEI には、このワクチンに関連して、3899 件の重篤な症例を含む、39,398 件のワクチン接種による合併症の疑いが通知されました。PEI によると、これらの事件のうち 0.3%が死亡、1.1%が後遺症を残しています。

ドイツでは 6 月末までに、製薬会社 Moderna 社の最近命名された「Spikevax」ワクチン mRNA-1273 を医師が 647 万回接種しました。それまでに 277 万人が 2 回のワクチンを接種した。PEI にはこれまでに 14,153 件の副作用報告が寄せられ、そのうち 629 件は重篤なものでした。ここでも、76.1%が主に女性でした。1,000 件のうち約 1 件は死亡、100 件に 1 件は後遺症が残っています。

ワクチンを接種した子供 2 人がクリニックで治療を受ける

PEIによると、ドイツでは190万人が、数週間前に条件付きで承認されたばかりの英ジョンソン・エンド・ジョンソン社のベクターワクチン「ヤンセン (Ad26.COV2.S)」を接種していた。これまでは、1回の接種で十分な予防効果が得られていました。今、ヤンセンに関する報道も増えています。PEIは、6月末までに、予防接種の合併症が疑われる症例を3061件受け取り、そのうち125件は重篤でした。報告されたケースのほぼ54%で女性が被害を受けています。PEIによると、これまでに報告されたヤンセン事件の全症例のうち、0.1%が死亡、0.6%が後遺症を残す結果となっています。ただし、使用期間が短いため、バランスが変わる可能性があります。

子供はCOVID-19の影響をほとんど受けません。しかし、ファイザー社とバイオンテック社のワクチンは、6月初旬に欧州レベルで12歳から15歳までの年齢層に条件付きで承認されました。しかし、ドイツでは、ロベルト・コッホ研究所 (RKI) の予防接種に関する常設委員会 (STIKO) が、特定の持病がある場合にのみ、この年齢層の子供に推奨しています。これは、これらの子供や青年に限っては、重度のコロナに感染するリスクが高いからです。

これはPEIの報告数値にも反映されています。連邦研究所によると、ワクチンを接種した12歳から15歳の子供たちに副作用の疑いがあるケースが24件報告されています。2人の子供は病院で治療を受けました。残念ながら、この報告書には、6月末までにドイツ国内でこの年齢の子どもたちが何人予防接種を受けたかは記載されておらず、症例数は実質的に無意味なものとなっています。

ますます増える TTS 事件-24 人死亡

TTS 症候群は、アストラゼネカ社の Vaxzevria に関連して、すでに重篤な副作用として認識されています。これは、脳、肝臓、腸、脾臓、脚の血管に重度の血栓が生じ、同時に血小板の数が減少します。後者のいわゆる血小板減少症は、現在の知見では、自己免疫反応によって引き起こされ、脳や他の臓器で重篤な出血を引き起こす可能性があります。

6月末までにPEIから157件のTTS事例が報告されました。被災者のほぼ3分の2は女性でした。連邦研究所によると、これらのワクチン接種による合併症で24人が死亡し、そのうち14人は60歳以下でした。致命的ではないにしても、後遺症が残ることが多いTTS症例の平均年齢は49.5歳で、COVID-19の死亡例の平均年齢を大きく下回っています。後者は、平均死亡年齢の80歳とほぼ一致します。

しかし、アストラゼネカ社以外のワクチンでもTTSの症例が発生しています。例えば、PEIではベクターワクチン「ヤンセン」の投与後に6名の患者が報告されていますが、いずれも50歳未満の方でした。その結果、30歳から39歳の男性1名が亡くなりました。TTSが疑われる症例は、ファイザー/バイオンテック社の Comirnaty が12件、Moderna社の Spikevax というワクチンが1件ありました。

血栓症や出血。数百人の死者が出た

ワクチンの合併症では、一般的に血栓症が特に大きな役割を果たしているようです。上半期に連邦研究所が報告した血栓症の症例数は2,138件でした。200人の被災者、つまりほぼ10人に1人が病気で亡くなったのである。

血栓症の報告件数は1076件、死亡者数は143人で、最も多く接種されているファイザー/バイオンテック社のワクチン「Comirnaty」に関連していました。また、943件の血栓症と48人の死亡者数は、アストラゼネカ社のワクチン「Vaxzevria」によるものと思われます。このうち96件の疾患と5人の死亡者数は、Moderna社のワクチンを注射した後に報告され、23件の血栓症と4人の死亡者数は、Janssen社のワクチンを接種した後に発生しました。

また、PEIでは初めて、閉経後の女性でも月経が過度に重く、長引くなどの大出血が疑われるケースが報告されました。COVID-19 ワクチン接種後のこのような事件は、すでに数ヶ月前から様々なインターネット上で報告されており、大手メディアもこれらの事例を取り上げています。

それによると、ポール・アーリック研究所にはこれまでに、ワクチンを接種したばかりの人が重度の出血を起こしたという報告が1128件寄せられており、6月末までに45人が死亡したこともあったという。死亡者12名(1.65%)を含む727名の罹患者が、アストラゼネカ社製のワクチンを接種していました。Pfizer/BioNTech社のComirnatyを接種したところ、356名の出血が発生し、31名(8.7%)が死亡しました。Moderna ワクチン投与後、PEIは43例を記録し、最終的に2名が死亡(4.65%)、Janssen投与後は2例が研究所に寄せられたという。

しかし、PEIは現在、出血の報告に関してはリスクを感じていません。同研究所の報告書では、文字通り「ワクチン接種率を考慮すると、現在のところリスクは見られない」と書かれています。つまり、記録された症例数から見て異常がないと判断しているのです。

心臓の炎症と自己免疫疾患のショック

それだけでなく、ドイツではCOVID-19の接種後に心筋や心膜の炎症が増加しました。Pfizer/BioNTech社のワクチン「Comirnaty」との関連性が考えられます。6月末までに173件の重症患者がPEIに報告されました。特に若年層、多くは男性が影響を受けます。

同じく mRNA に基づく Moderna ワクチンの接種後、当局はこれまでに 31 例の心筋炎を記録しています。それによると、アストラゼネカ社の注射後に 21 件、ヤンセン社のワクチン接種後に 1 件の心臓の炎症が発生したとのこと。PEI のデータによると、18 歳未満が 4 名、18 歳から 59 歳までが 102 名の計 226 名の被災者のうち、男性 6 名、女性 3 名が死亡しました。

また、6 月末までに 362 件のアナフィラキシーショックの報告がありました。これらの反応は通常、ワクチン接種後すぐに起こります。影響を受けた人は直ちに治療を受けなければならない。原因は、免疫系の過剰反応です。

麻痺を伴う脊髄の炎症

一方、PEI では、予防接種と、いわゆるギラン・バレー症候群（GBS）との関連性も指摘されています。Vaxzevria（AstraZeneca 社）の投与後、この疾患が「ワクチン接種者の数に基づいて偶然に予想されるよりも頻繁に報告され、リスクシグナルを示している」。PEI には 83 件の登録があった。6 人の患者が集中治療室で治療を受け、2 人が死亡しました。

GBS は、脊髄とそこから出ている神経の炎症です。自己免疫反応が引き金となって発症します。体の様々な部分に激しい痛みや麻痺が生じ、それが永続的に続くのです。

出典: <https://de.rt.com/meinung/120967-paul-ehrlich-institut-veroeffentlicht-halbjahres-bilanz-mit-10000-im>